大学院体育学研究科 カリキュラム・マップ(2025年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける(知識・能力・技術) ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける(能力) ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける(技術・能力・創造) ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける(知識・能力)

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
						①	②	③	④
体育・スポーツ学特論	講義	1	2	本研究科の教育理念や設置目的の理解のための基礎的科目としての位置付けであり、スポーツ教育およびスポーツ科学の両分野を広く学修し、体育学に関する研究能力や高度な指導能力を養っていくうえで必要な基礎的知識・実践力を得る。	体育学に関する幅広いテーマの概説を行い、研究や教育、様々な現場で能力を発揮できる高度専門職業人としての資質を身につける。	◎	○		
体育学特別研究Ⅰ	演習	1	2	スポーツ教育分野あるいはスポーツ科学分野の各担当者から、修士論文作成のためのリサーチクエッションの立案について議論を深め、研究の方向性決定につなげる。	修士論文作成のための研究法の基礎的理解とテーマの設定、課題抽出、研究計画の作成に至る学修を行い、体育学特別研究Ⅱの論文作成の具体的手法の理解につなげる。				◎
体育学特別研究Ⅱ	演習	2	2	主にGoogleScholarやCiNiiなどの検索エンジンを用いた文献検索、測定データの収集法、データの解析、結果の解釈など修士論文作成に必要な能力を修得する。	体育学特別研究Ⅰに引き続いて、実際の研究遂行に必要な知識や実践手法を身につけることができる。特に、論文作成に欠かせない文献整理とレビュー、研究デザイン、データ収集と解析、結果の総括と考察、プレゼンテーション能力を養う。				◎
体育学特別研究Ⅲ	演習	2	2	修士論文の課題設定、文献検索による研究方法や背景の探索、緒言や方法、考察などの章立てを指導教員と相談の上で、自身の修士論文の執筆能力を修得する。	修士論文作成のために，体育学特別研究Ⅰ及びⅡの学修を通じて、参考文献の理解、データ解析法の適切な利用から、研究のオリジナリティを発表できるプレゼンテーション能力にさらに磨く。				◎
保健体育科指導特別演習	演習	1・2	2	保健体育科指導において学校現場で求められる教科指導、生徒指導やカウンセリングの方法について、教科指導に関わる体育科教育学、臨床心理学、学校心理学の観点から学修する。学修した内容についての課題ペーパー提出、グループワークによる意見の交流、発表、具体的な指導計画の立案などを求める。	1)保健体育科教員に求められる資質・能力や指導法について修得し、指導法について具体的な授業プログラムを作成、発表することができる。 2)保健体育科の今後の方向性について、臨床心理を通して学修した内容を基に自己の考えを省察・論述することができる。 3)心理療法の技法体験を基に、学校現場で求められる生徒指導や生活指導のあり方についてカウンセリング等の視点を定め論述し、相互評価することができる。	◎		○	
体育科指導実践演習	演習	1・2	2	学習指導要領に示された体育科の内容である「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「ダンス」、「武道」の演習を通して、それぞれの教材について学び、諸課題を多角的に把握できる視点と研究力を身につけ、生徒が主体的に取り組める授業、効率的でよくわかる授業を展開するための実践的指導力を修得する。	体育科教育の実技指導に関わる高度な専門的知識を主体的に学び、授業構築や授業改善に必要な具体的知識や、示範能力および省察能力とともに、専門的指導力を身につける。	◎		○	
インターンシップ	実習	1・2	4	インターンシップでは、トップスポーツの試合運営、生涯スポーツイベントの企画・運営に関する就労体験を通じて、より高度で実践的なスポーツ・マネジメントを学ぶ。また、現場での経験を通じて、スポーツ以外の多様な事象との結びつきを理解し、スポーツ現場での実践力を身につける。	1)奈良県内のトップスポーツチームの試合運営、ならびに関連する事業の企画を通じて、スポーツ・マネジメント関連の知見を実践的に身につける。 2)奈良県内での生涯スポーツイベントの企画・運営を通じて、多様なスポーツ実践者の実態を理解し、安全・安心を含め、多くの市民に受け入れられるイベントのあり方を学ぶ。	◎		○	
海外インターンシップ	実習	1・2	2	海外インターンシップでは国際スポーツ交流実習に参加し、「スポーツと国際化」をキーワードに「スポーツによる国際理解」と「スポーツを通した異文化交流」を行う。日本とは異なる社会の中のスポーツを実体験するとともに、実習にかかわる人々との交流により、対異文化行動力の修得を目指す。	(1)海外でのスポーツ交流活動を通じて、自身の新たな可能性を発見できる。 (2)海外においてスポーツをする機会がどのように提供され、それを行う設備の整備、指導員育成、指導法がどのように確立され、運営されているのかを多面的に学ぶことができる。 (3)異言語を用いて現地の人々とコミュニケーションを取ることができる。	◎		○	
武道・スポーツ文化研究法	演習	1	2	武道とスポーツ文化領域の各専門領域担当者によるオムニバス形式の授業である。それぞれの研究の現状と課題について輪読や通読などを通じて理解を深める。また、具体事例から、問題解決につなげるための実践能力の構築につなげる。	武道(柔道・剣道)やスポーツ文化に関わる研究の輪読や通読などを通じて、課題の探求と解決のための能力を養うことを目的とする。それぞれの分野・領域に関わる文献や資料の輪読などにより講評能力および問題を明確にする思考能力を高めることができる。	◎	○		
武道学特論	講義	1・2	2	第1回～第5回は主として戦技であった武術が文化としていかに成立したか、武道の歴史を概観する。第6回～第10回は武道の思想や特性について学びつつ、海外の類似する運動文化との比較を行う。第11～15回は武道の指導法と国際事情について概観する	武道の歴史・思想・国際事情・指導法の概要について理解し、説明することが出来る。		◎	○	
スポーツ比較文化特論	講義	1・2	2	文化としてスポーツが社会とどのような関わりを持ってきたのかという歴史的側面も含め、様々な時代、地域での人間とスポーツとの関わりについて、多面的な見方と思考の方法を学ぶ。	広義かつ多様なスポーツの文化的側面(遊び、競争、観戦、信仰など)を理解し、スポーツを文化的事象としてとらえる視点と具体的な問題について探求する。		◎	○	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士（体育学）の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける（知識・能力・技術） ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける（能力） ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける（技術・能力・創造） ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける（知識・能力）

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
						①	②	③	④
スポーツマネジメント特論	講義	1・2	2	人文社会学分野での研究の流れを解説し、実際の研究や論文を執筆する際の重要なポイントを解説する。それと並行して、スポーツマネジメント・スポーツ社会学の学術論文における研究方法・分析方法について、基本的内容から近年のトピックまでを扱う。	スポーツマネジメント、スポーツ社会学といった人文社会学分野の学術論文に触れることにより研究方法・分析方法を身につける。		◎	○	
スポーツ運動学特論	講義	1・2	2	人間の身体文化活動としてのスポーツの動きや行為を取り上げ、その技術や方法をどのようにして伝承していくのかについて、発生論的運動学の視点から検討し学修する。	運動学習や運動指導に際して、理解しておくべき基礎的な知識や応用的な考え方を身につける。		◎	○	
保健・スポーツ教育研究法	演習	1	2	保健とスポーツ教育領域の担当者によるオムニバス形式の授業である。それぞれの研究の現状と課題について輪読や通読を通じて理解を深める。また、具体事例から、問題解決につなげるための実践能力の構築につなげる。	学校保健・スポーツ教育・体育科教育に関わる研究の輪読や通読を通じて、課題の探求と解決のための能力を養うことを目的とする。それぞれの分野・領域に関わる文献や資料の輪読などにより講評能力および問題を明確にする思考能力を高めることができる。	◎	○		
体育科教育学特論	講義	1・2	2	体育科教育学の知見に基づき、学習指導要領に示された領域（内容）のカリキュラム、教材づくり、授業構築・改善等に求められる具体的な知識および効率的でよくわかる授業づくりに必要な教師行動について学修する。	体育科，保健体育科のカリキュラム論ならびに教授・学習指導論の両面から、授業の構造や指導法について理解し、それを基に各領域（内容）の指導のポイントについて説明することができ、授業づくりについて多面的な見方からなる複数のプランを立案することができるようになる。		◎	○	
学校保健学特論	講義	1・2	2	学校現場に視点をおく近代学校衛生史の研究書をとりあげ、仲間とともに輪読する。 それによって、学校保健の歩み、学校保健の歴史研究の課題、および、歴史資料によって実証する研究方法を詳しく知る。	学校教育は子どもの健康を担う、という考えは、近代日本の学校教育が開始されて以来、その歴史のなかで独自の歩を進めてきた。それは、学校衛生・学校保健と呼ばれる領域である。 近代日本の学校保健の歩みに目を向け、一つの研究書を精読することを通して、学術的な観点から新しい知見を得るためのヒントをつかむことを目的とする。		◎	○	
身体表現学特論	講義	1・2	2	現代社会におけるさまざまな文化的価値や身体観、あるいは美的概念について、文献や資料の通読を通して理解を深め、現象を読み解くことを学ぶ。	中学校においてダンスが必修化された背景には、「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」が挙げられる。ダンスをはじめとする身体表現は、コミュニケーションのツールの一つとして発展し、世界各地で独自の文化を形成するとともに、身体表現を伴うスポーツにおいても、それぞれの時代で芸術や美意識に影響を与えてきた。本講義ではダンスや身体表現による教育的機能や文化的価値について考察し、専門的知識を得ることで、より豊かな身体によるコミュニケーションへとつなぐ方法論の学修と、問題を明確にする思考能力を養う。		◎	○	
野外教育学特論	講義	1・2	2	野外教育の定義・歴史・理論・効果を学修するとともに、野外教育で展開されるプログラムについて、多面的に学修して、野外教育プログラムを自ら指導・計画・運営・評価する能力を身につける。	野外教育の定義・歴史・理論・効果を踏まえ、自ら野外教育プログラムを企画して、プレゼンテーションを行うことができる。野外教育プログラムを実践するにあたり、必要な運営マネジメントとともに、適切な安全管理を行うことができる。	○			◎
スポーツ心理学特論	講義	1・2	2	スポーツ心理学に関する基礎的な知識を学び、体育・スポーツ活動で生じる心理的な問題への対策について検討する。また、最新の研究を紹介しながら研究方法についても理解を深める。	体育・スポーツ活動で生じる心理的な問題について、スポーツ心理学の理論に基づいた解釈ができる。	◎	○		
健康・スポーツ科学研究法	演習	1	2	健康とスポーツ科学領域の各専門領域担当者によるオムニバス形式の授業である。それぞれの研究の現状と課題について輪読や通読を通じて理解を深める。また、グループワークによる具体的事例の理解から、問題解決につなげる実践能力の構築につなげる。	健康とスポーツ科学の各専門分野の課題に関して、先行研究を講読するなどの方法を用い、この分野における学修の進め方及び研究の進め方について、最新の研究を学ぶ。病気の予防や健康づくりに役立つ人材として、幅広い知識や問題解決能力、研究法を身につける。各専門領域の先行研究を知ることで、研究計画のデザイン、統計解析法、図表の作成、論文構成を身につける。	◎	○		
体力科学特論	講義	1・2	2	昨今見られる子どもの体力低下の現状を改善し、競技スポーツに必要な専門的体力など青少年の体力向上に役立つ体力トレーニングや体力の測定評価への理解、中年期に増加する生活習慣病罹患を予防するための体力づくり、さらに介護状態を遅らせるために必要な体力づくりなど、体力の維持向上に関する先進的な研究を学修する。	発育から老化に至る体力の加齢変化を理解するとともに、幼児期から成人に至るまでの体力づくり、競技選手に必要な体力トレーニングの運動生理学的効果を学び、体育学修士に相応しい知識を身につける。		◎	○	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士（体育学）の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける（知識・能力・技術） ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける（能力） ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける（技術・能力・創造） ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける（知識・能力）

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
						①	②	③	④
スポーツ医学特論	講義	1・2	2	スポーツによる外傷・障害、または、スポーツによって生じる疾患や事故等に対する評価法・処置および治療法・予防法・リハビリテーション等について専門的な知識について学ぶ。運動療法やドーピングをはじめとした、スポーツに携わる者にとって必要不可欠な様々な医学的知見について、科学的根拠に基づいて議論する大切さを身につける。	スポーツによる外傷・障害、または、スポーツによって生じる疾患や事故等に対する評価法・処置および治療法・予防法・リハビリテーション等について専門的な知識を学ぶ。また、運動療法やドーピングをはじめとした、スポーツに携わる者にとって必要不可欠な様々な医学的知見について、科学的根拠に基づいて議論することができる。また、スポーツ医学に関連する最新の研究結果を参照し、その内容について理解を深めることができる。現場での実践や研究方法の修得に結びつけることができる。		◎	○	
トレーニング科学特論	講義	1・2	2	トレーニングに関する国内外の研究等を参照しながら、最新の研究成果や知見について理解するとともに、トレーニングの手段や効果の評価法、ならびに、効果機序、トレーニングによって生じる有害事象とその対応等について論じる。さらに、トレーニングを実施する際には対象・目的に応じた適切なトレーニングプログラムを作成しなければならないことから、トレーニング実施・介入に際しての基礎理論や現場への応用等に関して論じ、実践のための方法論についても考察する。	トレーニング科学に関する最新の研究知見を参照し、それらについて論じることでその研究方法や意義を理解するとともに、それら研究成果をトレーニングや運動指導、および、教育の現場で応用できる専門職業人としての能力を身につける。		◎	○	
スポーツバイオメカニクス特論	講義	1・2	2	バイオメカニクスとは「運動に関係する生態系の構造や機能を力学の法則に照らして研究する応用学」である. 本講では、スポーツ科学においてバイオメカニクスが果たせる役割、スポーツバイオメカニクスに関する基礎的知識に加えて、その研究・解析手法に関する学びを通して、身体運動のしくみを理解する力を習得する。	1）スポーツ科学におけるバイオメカニクスの役割を理解する 2）バイオメカニクスに関する基本的知識を修得する 3）バイオメカニクス的分析方法について理解する 4）バイオメカニクス的観点から身体運動のしくみを捉えられる		◎	○	
コーチング科学特論	講義	1・2	2	スポーツのコーチングに関する一般理論を学ぶとともに、ゲーム分析や視線分析などのパフォーマンス分析の手法および分析結果の活用方法についても理解を深める。また、これまでに得られている科学的知見や事例をもとにコーチング活動に必要な思考や能力について議論する。加えて、具体的にどのようにしてコーチング現場に活かせるようになるのかをディスカッション等を通して検討および探求する。	コーチング科学に関する理論について理解を深め、コーチ・指導者として、競技者やチームを育成し、目標達成のためのサポートを実践できる能力を身につける。		◎	○	
スポーツ栄養学特論	講義	1・2	2	栄養学や生理学、生化学といったスポーツ栄養学につながる基礎知識を概説し、関連する研究の知見を紹介しながら、研究で得られた知見を実際の現場にどのように活かしていくのかを考え、議論する。	スポーツ栄養学に関する幅広いテーマにおいて研究や教育・指導または自分自身の食生活を支えるうえで必要な知識を習得し、場面に応じた適切な助言ができるようになる。		◎	○	
武道学演習	演習	1・2	2	第1回～第10回は武道に関する先行研究を自分の問題意識から探索し、その概要を把握することに努める。第11回～第15回は問題意識に沿った研究資料を近世武芸伝書・近代武道資料・現代武道資料から選定し、講読しながら演習を進める。 第1回と第10回授業時に、受講生各自の問題意識を聴取し、その問題意識に見合った武道伝書や資料を選定し、読解（輪読）を行う。	武道に関する先行研究を検討することで、武道研究の最前線を把握し、オリジナリティのある研究テーマを設定することが出来る。近世期および近代期・現代期の史料を読解し、記述内容に沿った論述を展開することが出来る。		○	◎	
スポーツ比較文化演習	演習	1・2	2	スポーツ人類学の分野やスポーツ文化に関わるテーマを選び、研究内容や調査手法等について討論を行う。また、スポーツ人類学での研究手法であるフィールドワークを実践する。研究課題へのアプローチの方法としての参与観察について学び、体育学・スポーツ学への活用についても考える。	スポーツ人類学の分野における理論やエスノグラフィーなどから文化人類学的手法を学ぶことで、「スポーツ」が様々な地域や時代においていかなる意味や価値を持っているのかを探求する視点や方法について学修する。		○	◎	
スポーツマネジメント演習	演習	1・2	2	前半は教員から提示した学術論文の解説を通じて、多様な研究対象の事象に触れる。後半は、受講生が交代で関心のある学術論文に関して報告し、批判的な観点も含めて教員・受講生で検討する。	スポーツマネジメント、スポーツ社会学に関連する学術論文をもとに、社会科学の観点から見た現代社会のスポーツに関わる現象の理解を深め、特に批判的読解から新たな研究課題を導く力をつける。		○	◎	
スポーツ運動学演習	演習	1・2	2	スポーツ運動学に関する文献や学術論文を講読し、研究方法について学修する。また具体的な運動学習や運動指導時の事例をもとに、つまずきの解消や指導方法について討論する。	具体的な運動学習場面での諸問題において、課題解決につながる指導方法を考案し、実践的に運用できる能力を身につける。		○	◎	
体育科教育学演習	演習	1・2	2	体育科教育学における、カリキュラム論、教授・学習指導論、教師教育論の研究成果に触れ、授業研究の方法について学修する。また、そうした知見を自身の授業実践に適用し、教材づくりや授業構築・改善に活用するための方法について討論する。	体育科教育学の成果と課題を理解し、授業実践の改善に資する研究の方法や授業実践を振り返る視点について、具体的かつ複数の観点から説明することができるようになる。		○	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士（体育学）の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける（知識・能力・技術） ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける（能力） ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける（技術・能力・創造） ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける（知識・能力）

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
						①	②	③	④
学校保健学演習	演習	1・2	2	学校教育における、健康、発育発達、教員、保健、安全、疾病予防、保健教育などをキーワードとして、興味深いテーマの研究を取り上げ、論文の読解・議論・発表などの演習活動を通じて研究能力を高める。	学校保健に関する論文もしくは理論書を取り上げ、丁寧に講読することを通じて、論点をつかむ、問題を掘り下げる力量、あるいは、論考・論述の仕方を身につける。		○	◎	
身体表現学演習	演習	1・2	2	身体表現学の研究課題の設定、先行研究の検討、フィールドワークの立案、予備調査を行いながら資料収集を行い、それらの分析などを通して、先行研究の通読、データ分析、プレゼンテーション能力の基礎力を身につける。	身体表現学領域に関する先行研究の研究背景と目的の整合性、研究計画の妥当性、研究課題の独創性、研究課題の検証と考察と結論への一貫性を持った記述法について学び、自らの研究課題に則した資料の収集と分析方法を学修する。		○	◎	
野外教育学演習	演習	1・2	2	野外教育分野に関する修士論文作成に向けて、興味関心のあるテーマについて国内外の研究動向を把握し、研究テーマの設定を行うとともに、研究・調査を計画し、研究課題を解決するための適切な研究方法に関する知識を得る。	野外教育分野に関する最新の先行文献を精読して、現代的課題に対応した研究テーマを適切に設定できる。設定した研究テーマに関して過去にどのような研究方法が採用されてきたのかを概観して、研究課題を解決すために適切な研究計画を作成できる。毎回プレゼンテーションを行い、研究成果を他者に伝える能力を身につける。		◎	○	
スポーツ心理学演習	演習	1・2	2	競技スポーツや学校体育をフィールドとしたスポーツ心理学に関する研究テーマを取り上げ、理論および研究方法について理解を深める。また、理論の活用、介入方法についても検討し、心理的アプローチを行うためのプログラムの立案を目指す。	スポーツ心理学の分野に関する研究方法ならびに介入方法を学び、競技力向上や教育支援に貢献するための知識を修得する。		○	◎	
体力科学演習	演習	1・2	2	国内外で発表された先行研究から、課題とする研究をいくつか取り上げ、研究の問題点や限界から、自らの修士論文作成に関わる研究テーマを発見し、課題を解決する能力を身につける。	体力づくりのためのトレーニングや測定評価に関わる最新の先行研究の通読を通して、幼児や生徒、競技者、中高年者、高齢者を対象とした横断的・縦断的研究を理解し、ライフステージ（発育発達期、成人期、中年期、高齢期）に必要な体力やトレーニング法についての知識を修得する。		○	◎	
スポーツ医学演習	演習	1・2	2	それぞれのテーマについて総論を行ったのち、各自先行論文を収集し、それぞれのテーマにおける現況を理解する能力を身につける。各自のスポーツ経験を踏まえた積極的な議論を行い相互の理解を深める技能を身につける。また、パワーポイントを用いた発表を積極的に行い発表スキルを身につける。	1）各個人においてはスポーツ医学特論の中で特に興味を持った分野において研究課題を選定し先行研究論文を収集し抄読する能力を身につける。また、その論文抄読を通じて、スポーツ医学関連領域の研究課題の設定方法や研究方法について学ぶ。 2）重要な研究トピックについてはそれに関する論文を輪読し、研究の意義や研究知見の現場での応用などについて教員および院生間でディスカッションを行い、本領域における研究に対する理解を深める。パワーポイントを用いた発表を身につける。		○	◎	
トレーニング科学演習	演習	1・2	2	トレーニング科学の論文通読から、研究の成り立ちや課題の設定、研究方法について理解することにより、自身の研究や今後の現場等における課題解決のための研究作業の進め方についての知見を得る。	トレーニング科学に関するこれまでの、あるいは、最新の研究論文を通読することにより、トレーニング科学領域に関連する課題の探索やテーマの設定を行う上で不可欠な研究成果および有意義な知見を確認し、発表およびディスカッションを行うことで、トレーニング科学に関する幅広い見識を養う。		○	◎	
スポーツ栄養学演習	演習	1・2	2	研究を進めていくうえで必要な知識、技術を身につけ、栄養学分野の研究成果を先行研究や文献を読むことによって栄養学分野の研究の傾向を把握する。また、文献の要旨をまとめ、発表することで、今後の研究に役立つ知識と技術を深める。	運動やスポーツと栄養の関係を検討した研究成果について学び、自らの研究テーマを確立するための基礎知識と基本的な手法を習得する。また、取り組んだことを研究として成立させるための情報収集能力を身につける。		○	◎	
スポーツバイオメカニクス演習	演習	1・2	2	スポーツバイオメカニクスに関連する先行研究の輪読を通して、当該研究手法の可能性や問題点を理解する。それらを通して、自身の研究テーマや研究手法を精査し修士論文作成における課題解決能力を身につける。	スポーツ科学において、スポーツバイオメカニクスが果たすことのできる役割や限界について理解し、本領域に関連する課題探索およびテーマや研究手法の設定ができるようになる。また、基礎的な研究手法を習得するとともに、ディスカッションを通してそれらを応用した研究手法などを考えられる能力を身につける。		○	◎	
コーチング科学演習	演習	1・2	2	コーチング科学に関する先行研究から関心のある研究をいくつか取り上げ、課題の設定および研究方法について理解を深めるとともに、プレゼンテーションを通して発表スキルを身につける。また、試合映像や視線データなどを用いてパフォーマンス分析を実践する。	コーチング科学分野における研究動向を把握し、課題の設定方法および研究方法について学ぶとともに、パフォーマンス分析の実践を通して基本的な分析の手法を習得する。		○	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に修士(体育学)の学位を授与します。 ①体育・スポーツに関わる高度な専門的知識を学修し、実践に応用できる能力・技術を身につける(知識・能力・技術) ②ライフステージに応じて、スポーツなどの身体活動に求められる課題を解決できる能力を身につける(能力) ③科学的根拠にもとづいて、競技能力を高めるための練習法の改善、効果的な指導法を考案し、教授できる力を身につける(技術・能力・創造) ④社会状況や文化的伝統を正しく理解した上で、ライフステージに応じた柔軟なマネジメント能力を身につける(知識・能力)

科　　目　　名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要			
						①	②	③	④
生理学特論	講義	1・2	2	呼吸、循環、代謝といった運動生理学につながる基礎知識を概説し、関連する研究の知見を紹介しながら、研究で得られた知見を実際の現場にどのように活かしていくのかを考え、議論する。	運動生理学に関する幅広いテーマにおいて研究や教育・指導または自分自身の競技生活を支えるうえで必要な知識を習得し、場面に応じた適切な助言ができるようになる。		◎	○	
生理学演習	演習	1・2	2	運動生理学に関する先行研究から関心のある研究をいくつか取り上げ、課題の設定および研究方法について理解を深めるとともに、プレゼンテーションを通して発表スキルを身につける。また、生理学的な指標を用いて、運動に対する身体応答を分析する。	運動生理学分野における研究動向を把握し、課題の設定方法および研究方法について学ぶとともに、生理学的な指標を用いて基本的な運動に対する身体応答の分析手法を習得する。		○	◎	
学校インターンシップ	実習	1・2	2	学校インターンシップでは，教育現場への長期的・継続的な参与を通じて，現代教育の実情や児童生徒の成長・発達，教育現場において生じる問題とその背景と取り組み等に関する理解を深める．また，教育現場の状況やニーズと自身が教師を目指すうえで獲得・改善すべきものを整理したうえで，自ら課題を設定し，その課題解決にむけた教育現場における実践とその省察を繰り返す探求的活動により，実践的指導力の向上をめざす．	1）教育現場で実際に体験したことをもとに，多様化・複雑化した教育課題とそれに対する指導・支援のあり方について，教職員の連携や協働，チーム学校等の視点から説明することができる． 2）教育現場で実際に体験したことをもとに，変化する学習環境を踏まえた児童生徒の新たな学びへの転換に対応するために求められる教科や教職に関する専門的知識について，自己の取り組みや能力，課題等を省察・論述するこ	◎		○	